



- ①雪の中もへっちゃらです。
- ②スノーシュー。靴の上から装着します。
- ③初めて履くスノーシューに最初は苦戦。みんなで教え合いながら履きました。

今回歩いたのは覚満淵周辺。普段は水が張っているとところをこうして歩くのは不思議な感覚です。歩いていると小さな動物の足跡を発見。歩くことで発見できることがあるんですね。雪が深い場所ほどスノーシューの強みが発揮できるので、今度は険しい場所を歩いてみたいと思いました。また、赤城山観光連盟では定期的にスノーシューハイキングを開催しているそう。気軽に体験できます。

❄️ 雪の上でも快適スノーシュー

バスを降りると雪がたくさん。今年はまだ雪が少ないそうですが、それでもたくさんの雪が積もっていました。

まず体験したのはスノーシュー。スノーシューは、足に装着して雪の上を歩くための道具です。運動靴などでは雪に埋もれて歩けないような場所も、これを履いていると埋まらない！全員初体験だったので最初はぎこちない動きでしたが、すぐに慣れて歩きやすくなりました。

❄️ 子どもも楽しめる！スノーエスカレーター

覚満淵から少し下ったところにある赤城山第1スキー場は、自称日本一小さいスキー場。斜面の半分がそりで遊べるエリアになっています。天然の雪の中、子どもが思う存分雪遊びを楽しめます。

この名物は全長60メートルのスノーエスカレーター。ベルトコンベア式で、ゆっくり斜面を登るので小さい子どもも安心。帰りはそりで一気に下ります。休日はそりやスキーの練習をする子どもたちなど、家族連れでにぎわっています。スノーエスカレーターは土日曜と祝日に運行。800円で1日楽しめます。



ワカモノ記者が徹底解説！冬の赤城山の楽しみ方



いつも私たちを見守る赤城山。新緑や紅葉など四季折々の色で私たちに季節の訪れを教えてください。今回は、冬の赤城山を取材。そこには白銀の世界が広がっていました。

担当 安済茜、小内香生流、品川亜衣、千葉友理香
図 観光振興課 ☎027-210-2189

❄️ 赤城山へいざ出発！バスなら安心安全

冬の赤城山の道は、所々雪があつたり凍ったりしている場所があります。運転が不安な人にはバスがおすすめ。関越交通バスがJR前橋駅から赤城山方面へ出ています。今回私たちはこのバスに乗って赤城山へ。登るにつれて変わっていく景色も楽しめます。

また、この路線の1日フリー乗車券があります。大人3,100円、小人1,550円でJR前橋駅から赤城山ビジターセンターの間で1日乗り降り自由。土日曜・祝日の赤城山直通バスの車内で販売しています。赤城山で遊んだ後、富士見温泉見晴らしの湯ふれあい館で冷えた体を温める、という冬ならではの楽しみ方もできそうです。

